

第3学年1組 道徳科学習指導案

平成〇〇年〇月〇日（〇）第〇校時

1 主題名 自信をもって正しいことを

2 ねらい 自分が正しいと思うことは、自信をもって行おうとする態度を養う。

教材名 「SL公園で」（出典：「新しいどうとく 3」 東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする指導内容について

本主題は、内容項目A「正しいと判断したことは、自信をもって行おうとする態度を養う。」をねらいとしている。人として行ってよいことかどうかを判断し、人に左右されることなく自ら正しいと信じることに従ってその判断に基づいて行動することは、価値観の多様な現代社会を主体的に生きる基盤となる道徳性である。しかしながら、人間には弱い部分もあり、正しいことと理解していても行動にうつせなかったり人に流されたりしてしまう。人間にはそのような弱い部分があることにも触れながら、「正しくないことはしない」、「正しくないことを人に勧めない」に留まらず、人から誘われたときに自信をもって断ったり、自分が「正しくないことをしている」と思ったら自信をもって止めたりできる態度を養っていきたい。そして、いつでもどこでも誰にでも「正しいことは正しい。正しくないことは正しくない。」と自信をもって言えるようになってほしい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、正しいこと・正しくないことの判断はできる児童が多い。正義感が強く、友達が正しくないことをしていると注意できる児童も多いが、その注意の仕方トラブルになったり、「ちょっとだけなら…」、「友達がやっていたから…」と周りに流されてしまったり、正しいと分かっている自信がなく言えなかったりする場面もまだまだ見られる。正しくないことをしている友達を自分で止めるのではなく、担任に報告して解決を求めようとする児童も多い。これらのことを考えると、本学級の児童は、判断したことを実生活に結び付けていこうとする意欲・態度を育てていくことが必要であると考えられる。

これまで、休み時間を中心に、正しいと分かっているにもかかわらず流されてしまった場合には「何がいけなかったのか」、「本当はどうすればよかったのか」、「その時、どんな気持ちだったか」を考えさせる声掛けを行い、自分自身を振り返らせる指導を続けてきた。また、自信がなく言えない児童には、「正しいことを伝えることが相手のためになる」、「伝えないのは自分もやっているのと同じ」と話したり、「言えない時の気持ち」を聞いたりするようにしてきた。特に、道徳の授業では、様々な教材を扱う中で人間が持つ弱い心の部分にも触れるようにし、その心があることは決して悪いことではないことを繰り返し伝えてきた結果、道徳の授業の話の思い出したり、主人公と自分を重ねたりして行動しようとする児童も少しずつ増えてきている。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、SL機関車が置いてある公園で遊んだときの話である。友達のつよしに誘われても一人柵のあるSL機関車に決して登らなかった主人公のしんごが、通りかかった女の人に自分も注意され、帰り道に考え込む教材である。友達との遊びでの出来事であり、身近で自分事としても考えやすい教材である。教材の活用にあたっては、①誘われても登ろうとしなかった場面、②いけないことと分かっているながらも登るみんなを止められなかった場面、③女の人の言葉をきっかけに帰り道に考える場面の主人公の気

持ちを考えることで、児童の多様な意見を交流させながら、自分がやらないだけでなく相手を止めることまで考えられればよかったことに気付かせ、ねらいとする道徳的価値に迫っていきたい。

4 道徳科における本年度の重点項目の指導計画

内容項目	【事前指導】	【道徳科】	【事後指導】
A 善悪の判断 自律、自由と責任	(随時 各教科) 思ったことや考えたことを進んで発表できるように指導した。 (休み時間) 何か問題があった時には、その都度「何がいけなかったのか」を一緒に考え、自己を振り返らせるような指導をした。	(10月) 「SL公園で」 自分が正しいと思うことは、自信をもって行おうとする態度を養う。 (2月) 「ハートがたのガム」 正しいと判断したことは、自信をもって行おうとする心情を育てる。	(学校生活の中で) 休み時間や給食・掃除の時間など、様々な場面において自分で考え、正しいと思ったことを実践していた児童を称賛し、学級全体へ広めていく。
A 希望と勇気 努力と強い意志	(毎月) 月ごとの生活目標に対して自分のめあてを立て、月末に達成度を振り返る。 (9月 運動会) 自分のめあてに向かって努力を続けている児童を称賛したり、努力できるような声掛けをしたりする。 (1～2月 大縄大会) 自分・クラスのめあてを立て、そのめあてに向かって諦めずに取り組めるような声掛けを行う。	(11月) 「きっとできる」 自分でやろうと決めたことは、辛抱強くやりぬこうとする心情を育てる。 (3月) 「まけるものか」 つらいことがあっても強い意志をもって、やりぬこうとする心情を育てる。	(11月 マラソン大会) 自分のめあてを立て、達成を目指して諦めずに練習に取り組めるような声掛けを行う。 (3月 学級活動) 3年生の自分を振り返り、進級に向けてどんな4年生になりたいかを考え、めあてを立てる。

5 研究テーマ「よりよく伸びようとする児童の育成～自己の生き方についての考えを深める授業展開を通して～」に迫る手立て

○自分自身のこととして捉えられるような発問を工夫すれば、自己の生き方についての考えを深めることができるだろう。

- ・導入で、具体的な場面を設定し、「自分だったらどうするか」を問うことで、一人一人が自分事として考え、問題意識をもたせた上でねらいとする道徳的価値の教材の中へ入り込んでいけるようにしていく。
- ・展開後段で、今までの自分を振り返り、これからの自分について考えさせるような発問をすることで、自己を見つめ直し、よりよい生き方について考えられるようにしていく。

○「ともに考え、話し合う」活動を設定すれば、自己の生き方についての考えを深めることができるだろう。

- ・ 中心的な発問で小グループでの話し合いを取り入れることで、多様な感じ方や考え方があることに気付かせていく。また、グループの発表からクラス全体へとその考えを広げ、抽象的だったりもっと深く考えさせたかったりする児童の発言に対しては教師が切り返すことで、一人一人がねらいとする道徳的価値に対して多面的・多角的な見方ができるようにしていく。

○「自分や友達の良さに気付くことができる環境」を整えることで、自己の生き方についての考えを深めることができるだろう。

- ・ 学校生活の中で正しいと思ったことを自信をもって行うことができた児童を取り上げ、称賛していく。
- ・ 月ごとの生活目標に対して自分なりのめあてを立て、月末に振り返る。達成者を発表し、学校・学級全体で称賛していく。
- ・ 日頃から子どもたちの声によく耳を傾け、子どもたち同士で見つけた良さを教師が拾い上げ、紹介していく。また、子ども自身の声でも届けられるように、帰りの会で発表できる場を設ける。

6 学習指導過程

	学習活動○主な発問 (◎中心発問)・予想される児童の反応	●指導上の留意点 ◆評価の視点
導入	①具体的な場면을提示し、「自分だったらどうするか」を考える。 ○友達に、「通学路ではない道を通って帰ろう」と誘われました。あなただったら、どうしますか？ ・ 同じ道を通らないといけいから、断る。 ・ 「今日だけなら…」と思って通ってしまう。 ・ いけいことだけれど、「友達が言うなら…」と迷う。 ・ 注意する。	●身近に起こりそうな出来事について尋ね、一人一人が自分事として考えることでねらいとする道徳的価値へ問題意識をもたせる。 ●多様な考えがあることに気付かせると共に、「いけいこと」と分かっているもできないときがある人間の弱さに触れるようにする。
展開	②資料「SL公園」の範読を聞き、考えたり話し合ったりする。 ○つよしから誘われたのに登らなかったしんごは、どんな気持ちだったでしょう。 ・ あぶない。 ・ 怒られそう。 ・ 柵があるから登っちゃいけい。 ・ いけいことだから、自分は登らない。 ・ 「だめだよ」と言いたいけれど、言えい。 ○しんごは登らないことが正しいことだと思っていたのに、どんな気持ちがあって止められなかったのでしょうか。 ・ 言いづらいい持ち。 ・ 嫌われるかもしれない。 ・ 勇気がない。 ・ 自分は怒られいだろう。 ・ 一人だから自信がない。 ・ なか間はずれにされるか心配。 ◎帰り道、しんごは一人でどんなことを考えていたでしょう。	●しんごの気持ちになって範読が聞けるような言葉掛けを行う。 ●自慢げに登るつよし、つよしに流される他のみんなの中で一人登らないでいたしんごに自我関与させ、多様な感じ方を出させるようにする。 ●誘われても登らなかつたり、他の友達に流されなかつたりしたしんごの良さ(正しさ)も押さえられるようにする。 ●言いたいけれど言えなかつたりしんごに自我関与させ、多様な感じ方を出させるようにする。 ●中心発問のきっかけとなった女の人の言葉を押さえることで、より深く考えら

	<p>(〇〇できればよかった, 〇〇だけではいけなかった)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなを止められればよかった。 ・自分がやらないだけではいけない。 ・「やめなよ」とはっきり言えたらよかった。 ・いけないことだから, 止めなければいけなかった。 ・勇気を出さなければいけなかった。 <p>(不満, 落ち込み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんで登ってないのに女の人に言われたんだろう。 ・やってないのにぼくも怒られちゃった。 ・言えなかったな。 <p>③今までの自分を振り返り, これからの自分のよりよい生き方について考える。</p> <p>○自分が正しいと思ったことを言えたりできたりしたことはありますか。</p> <p>○今までの自分を振り返り、「これから自分はこうしたい」ということを道徳ノートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がいけないことをやらないだけでなく, 相手を注意できるようになりたい。 ・正しいと思ったことは, 自信を持って言えるようになりたい。 ・今までの自分は〇〇だったけれど, これからは△△していきたい。 	<p>れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小グループで意見を交流する。交流したことを全体で発表し, さらにそれぞれの考えを交流させることで, 多面的・多角的に考えられるようにする。 ●女の人に言われたことに納得がいかないような意見が出た場合は, まずはその気持ちを受け止め, 全体に切り返して考えさせる。 ●自分がいけないことをやらないだけでなく, 相手を止められればよかったことに気付けるようにしていく。 ◆しんごの心の内を話し合うことを通して, しんごの立場になって自分の考えを表出している。(話し合いの様子・発言) ●発問に対して児童の反応が弱い場合には, 例を出して想起しやすいようにする。 ●道徳ノートに記入させることで, 一人一人が自己を見つめられるようにする。 ●具体的に書いている子を意図的に指名して発表させることで, ねらいとする道徳的価値について深められるようにする。 ◆自分が正しいと思ったことは, 自信をもって行おうと考えている。(道徳ノート・発言)
<p>終末</p>	<p>④教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ねらいとする道徳的価値への考えを深めさせるため, 教師の子どもの頃の実体験を話す。

7 評価の視点

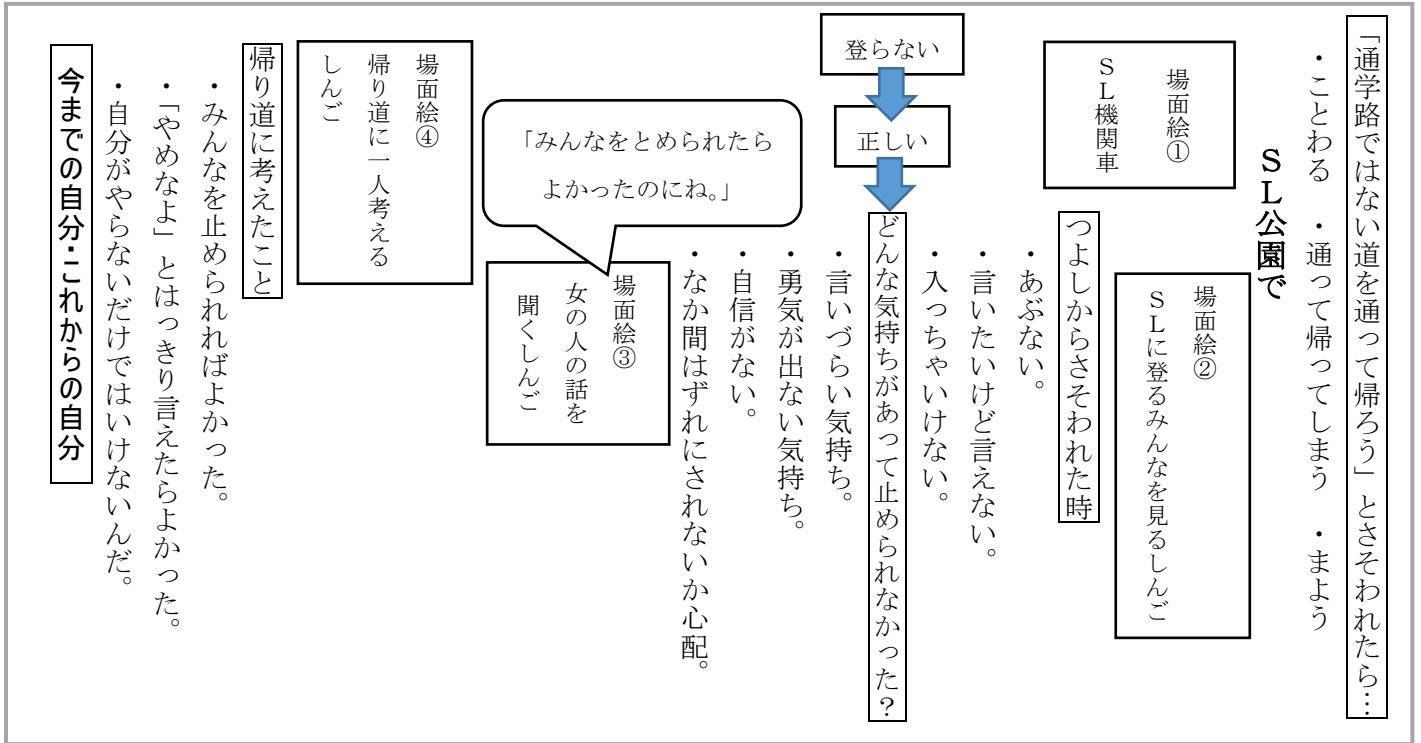
【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・主人公の心の内を話し合うことを通して, 主人公の立場になって自分の考えを表出している。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自分が正しいと思ったことは, 自信をもって行おうと考えている。

8 板書計画



【板書写真】

